

令和元年度 第1回宮崎県産業教育審議会議事の概要

1 日 時 令和元年10月18日(金) 13:15～15:45

2 場 所 県庁本館2階 講堂

3 出席者

(1) 審議委員8名

安 藤 孝	株式会社食品検査・研究機構 代表取締役
爲 山 高 志	一般財団法人みやぎん経済研究所 常務理事
寺 原 典 彦	学校法人南九州学園理事長 南九州大学学長
福 良 公 一	宮崎県農業協同組合中央会 会長
松 原 和 恵	養豚経営(元宮崎県女性農業委員連絡協会会長)
宮 内 安 成	日本貿易振興機構宮崎貿易情報センター 所長
吉 田 陽 子	吉田産業株式会社 相談役 中小企業団体レディース中央会 会長
柚木崎 千鶴子	宮崎県食品開発センター 所長

※欠席者5名

香川 憲一(農事組合法人香川ランチ 代表取締役社長、農業法人経営者協会会長)
 宮田 理恵(catena株式会社 代表、みやぎきブランドマーケティングアドバイザー)
 戸敷 正(宮崎市長、宮崎県市長会会長)
 川越 寛(宮崎農業高等学校 校長、宮崎県農業教育研究会 会長)
 水永 正憲(宮崎県キャリア教育支援センター トータルコーディネーター)

○宮崎県農業教育研究会

日南振徳高等学校 校長 奥村 昌美

○県教育委員会事務局

教育長、高校教育課長、課長補佐(総括)、課長補佐(政策)
 高校教育・学力向上担当主幹、産業教育担当主幹、産業教育担当指導主事

1	開会のことば
2	教育委員会あいさつ
3	審議会委員並びに事務局職員紹介
4	宮崎県産業教育審議会概要説明
5	審議会会長並びに副会長選出 ※寺原典彦氏に会長、川越寛校長に副会長を選出
6	審議会会長あいさつ
7	諮問
8	審議
(1) 諮問事項について	
事務局	諮問内容及び諮問理由について説明(別冊資料)

(2) 専門委員会の設置について	
事務局 委員長 各委員 委員長 事務局 各委員	<p>専門委員会の設置について説明（別冊資料）</p> <p>事務局より説明があったが、専門委員会を設置してよろしいか。</p> <p>異議なし</p> <p>異議がないので、専門委員会を設置する。</p> <p>専門委員について、事務局より提案をお願いしたい。</p> <p>別紙にて提案</p> <p>その他、委員から推薦があれば、最終調整を行う。また、今後、変更が生じた場合には、会長と合議の上、委員を選考する。</p> <p>専門委員に変更がある場合は、事務局合議を行うので、会長に一任いただけるか。</p> <p>異議なし</p>
(3) 本県農業教育の現状等について	
事務局	別冊資料にて農業高校の概要、学習内容等について説明
(4) 新学習指導要領について	
事務局 農業教育研究会	別冊資料にて改訂のポイントや内容について、概要説明 補足説明
質疑・応答	
会 長	事務局からの説明（3）（4）に質問・意見があれば、お願いしたい。
委 員	学習指導要領の改訂は、過去の例からどれくらいのサイクルで行われているものなのか。
事務局	おおむね10年で改訂されている。中央教育審議会に諮問され、そこで審議されている。
委 員	今回は、学習指導要領が示されたばかりなので、それに基づいて、2年間でしっかりと対応した内容にするというスケジュール感でよいのか。
事務局	本審議会と改訂のタイミングが重なったため、新学習指導要領の内容に合わせた形で、審議を進めていただきたい。
会 長	専門委員会への調査事項について意見を伺いたい。
農業教育研究会 委 員	<p>調査事項等についての補足説明</p> <p>工業出荷額の1兆数千億円の中で、食料品製造は、3700億円くらいで、農業産出額とほぼ同じくらい。食品製造の割合は、20%、飲料・アルコールを加えると30%になる。宮崎県は、全国を見たときに、農業県であると同時に、工業分野から見ると食料品の割合が大きいという一つ</p>

	<p>の特徴がある。そういった中で、今回の資料には、宮崎の農業に関する統計はあったが、食品加工に関する資料がなかったのが残念であった。フードビジネスは、農業を含めての食品関連産業なので、大きなくくりでの資料も準備してもらえると良い。専門委員会の名簿を見ると食品製造分野の委員が入っていないので、可能であれば、食品製造業の委員も追加して欲しい。</p>
<p>会 長</p>	<p>専門委員会で食品分野に関する議論を行っていただきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>今の意見に賛成で、日頃、海外輸出に携わっているが、バイヤーからは、加工食品で賞味期限1年以上のものが求められている。流通に時間がかかるので、賞味期限が3か月から半年では、短いと思われる。昨年11月、ドバイからシェフを招いて商談会を開催した際、小林の肥育農家を訪問し、自分たちが育てた牛がレストランで提供されている写真を見て、農家の方は、大変嬉しそうにしていた。生産者が海外で提供されている状況や場面を知ることは、モチベーションを上げることになり、宮崎に生産現場があることは、強みである。消費の現場を作り手が知ることは、いい機会であり、生産の改善につながっていく。高校の教育の中に、少しでもそういう機会を設けることができれば、よいのではないか。社会が早いスピードで変化しているので、そういった視点も大切ではないだろうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>今までの農業教育は、家族農業として、個の農家を育てることが多かったと思う。しかし、農業の形態が変わってきて、家族経営の農家は少なくなってきており、法人経営が多くなってきている。農業従事者は、増えてきているが、割合は、法人就農の方が大きくなってきている。</p> <p>学校では、個人経営がしたいのか、それとも、農業が好きだから就職として法人就農がしたいのかで教育内容が変わってくる。今は、過渡期だと思うが、国の施策を見ていると、個人の農業が軽視されている施策が多いので、個人の農業は少なくなっていくと思う。個人経営は、農業の基本なので一番大事だと思う。教育の場では、分けたいいけないが、でも分けないといけない状況もあり、難しいところだと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>このような事を解決する方法についても議論いただきたいと思う。</p> <p>今のような、こらからの農業教育に期待することをテーマに意見をいただきたい。</p>
<p>委 員</p>	<p>学習指導要領が、「教師がどう学ばせるか」から「生徒がどう学ぶか」に変わったのはかなり大きな変化であると思う。専門委員会に、それぞれの学科の生徒が、学んだ学科に関する就職、進学した率を調べて欲しい。率がわかれば、教育内容が就職、進学に活かされたかが一番簡単にわかる。率が低い学科があったとしたら、そこに何らかの問題点を見いだし、カリキュラムの検討や進路選択等を調査していただきたい。</p> <p>先程、農業大学校に教育委員会から5名ほど派遣されているという</p>

	<p>ことを伺ったが、宮崎県の特徴として公立の試験場が全国でも特出した技術力、施設を持っているので、食品開発センターや農業試験場などの実際に就職した後に関わる機関の研修や見学をどれほどカリキュラムに盛り込めるのかを検討して欲しい。</p>
会 長	<p>これから大事な視点になってくる。</p>
委 員	<p>諮問の視点で、地域や社会の持続的な発展を担うとあり、地域資源や技術が途絶えてしまうのは、労働力不足そのものが原因になるのかもしれないが、地域コミュニティーや自然環境、伝統文化を継承することは、農業と関係性が深い部分がある。先程、説明があった30科目の中には、地域の資源や伝統文化を学ぶ科目がないのではないかと思うが。</p> <p>地域の文化や農業と関連した伝統的なものをつないでいくためにも、地元の魅力を教育の中で伝えていってほしい。地元に残る人が少ないのは、やむを得ない面があるかもしれないが、地域の魅力、宮崎の魅力に力を入れてもらえればと思う。</p>
委 員	<p>委員からの話にもあったが、宮崎は、農業生産額に比べて食品加工の出荷額が低いと認識しており、そこが一致していない要因を調べる価値はあるのではないか。例えば、ゴボウの産地であるが、他県で加工されて、宮崎に入っているのも、それを何とかしようとして生まれた加工品もある。農業教育の範疇では無いかもしれないが、かつては、海外の安いものに流れていく傾向もあったが、地域や個人農家を守るためには、正しい消費者教育を行うことで地域コミュニティーを守るような視点も必要ではないかと考えている。</p>
委員長	<p>分野構成と科目について、新たに4つの分野に分けられているが、本県の学習の分野に適合しているのか伺いたい。</p>
農業教育研究会	<p>全国で見たらそのような大きな分け方になっているが、宮崎県では、この中のどこにウエイトを置いていくかということは、この審議会で議論をいただければよい。</p>
委員長	<p>分野によって、科目数が異なるので、気になった。</p> <p>農業高校を外から見てどのように思うかという視点で、ご意見を伺いたい。期待することでもよい。</p>
委 員	<p>各学科の卒業生の皆さんが、実際にどこに就職したかということは、興味がある。今回の審議の目的に地域を担う産業人を育成する農業教育と示してあるので、ここで議論して、そのような生徒を育て、自分たちが学んだことを生かした進路に進んでくれるという前提で、議論を進めていく訳だが、その前提ができていないということであれば、違う議論も必要になってくる。</p>

<p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>入学の理由は、色々あると思うが、入ったからには、その学科、農業や食品が面白くて、それに関係する道に進んでくれるよう、3年間で生徒が育ってくれる環境作りが理想ではないかと考える。そのような教育の場を与えることができるように新しい学習指導要領を参考にして、答申を作り上げていきたい。議論の前提を知るためにも進路状況を提供していただいて、今後の協議に生かしていきたい。</p> <p>今の意見とは、異なるかもしれないが、これだけの農業高校の生徒達が卒業して、農業に関わってくれれば、本当に素晴らしいことだと思うが、それは、難しい。生徒達が3年間、農業高校で学んで、実習して、体験型の学習をしたことは、何十年経っても忘れないと思う。卒業した後、一般企業に勤め、定年後、農業に目覚めてくれれば、それでもいいのではないかと思う。</p> <p>他に意見がなければ、いただいた意見を専門委員会に依頼して、第2回審議会で、報告していただく。</p>
<p>(5) 今後の審議日程について</p>	
<p>(6) その他（議事録のHP掲載について）</p>	
<p>9 教育委員会あいさつ</p>	
<p>10 閉会のことば</p>	

掲載資料（諮問文、審議会委員）